



# 再建は社員を愛することから始まった

## 路線バスの奇跡の復活物語

倒産寸前だった地方の路線バス会社を、地域密着の経営戦略で見事に蘇生させた四代目社長・野村文吾さん。「黄色いバスの奇跡」とも呼ばれた劇的な再建を支えた、その経営哲学。



北海道南東部に広がる十勝平野。その中央に位置する帯広市に、十勝バスの本社はある。一九二六（大正15）年創業の老舗であり、長年にわたり人々の「足」となってきた路線バス会社だ。

バス業界は、長期低迷の只中にある。バス会社の七割が赤字で、地方バスに限れば実に九割が赤字だといわれる。マイカーの普及や人口減少などの影響で、路線バスの利用者は年々減ってきたからだ。十勝バスも然り。利用客数は、二〇〇〇年代には最盛期の二割以下にまで落ち込んだ。

当然、経営は火の車であった。一九九七（平成9）年に、現社長・野村文吾さんは先代の社長である父・文彦氏から、会社を畳む決意を告げられた。

「私は父から『会社を継げ』と言われたこと



とちかち  
十勝バス株式会社  
代表取締役社長  
野村文吾

### のむら・ぶんご

1963年北海道帯広市生まれ。小樽商科大学卒業。国土計画株式会社（現・株式会社西武ホールディングス）を経て、98年、曾祖父が創業した十勝バス株式会社に入社。2003年に社長就任。利用者減少などで経営が行き詰まっていた同社を改革し、再建を果たした。帯広商工会議所副会頭など公職も多数務める（撮影 編集部）